

第3章

計画の目標

本章では、市民等・事業者・市の三者が共通の認識を持って環境の保全と創造に取り組むために、将来の環境像を掲げます。また、将来の環境像の実現に向けて、5つの基本目標を示します。

第3章 計画の目標

1 将来の環境像

将来の環境像とは、本市がこれからどのような環境をめざして取り組みを推進していくかを示す長期的な目標です。

本市の環境を総合的な視点でとらえるとともに、市民等・事業者・市の三者がめざすべき将来の環境像を共有し、その実現に向けて5つの基本目標を設定し、各種施策を実施していきます。

【将来の環境像】

イルカが泳ぐ藍い海 キリシタンの歴史漂うまちなみ
守りつなぐ 環境にやさしいまち あまくさ

この環境像は、条例に規定している「天草市の健全で恵み豊かな環境の享受を維持していく」ため、地域活動や団体活動、一人ひとりの日常生活、事業者の事業活動の中で、環境の保全に取り組んでいくことをめざしたものです。

「イルカが泳ぐ藍い海」は、天草の恵み豊かな自然を、「キリシタンの歴史漂うまちなみ」は、崎津集落をはじめとしたキリシタンの歴史を伝える史跡や施設など、自然と調和した美しい文化的景観が残されている天草を表現し、「守りつなぐ 環境にやさしいまち」には、ごみの分別や海岸・河川等の清掃活動などの市民活動によって、暮らしやすい天草市を市民みんなで作っていこうという思いが込められています。



二江沖を泳ぐミナミハンドウイルカ



倉岳町の棚田



世界遺産に登録された崎津集落



海岸清掃の様子

2 基本目標

(1) 天草の特性を踏まえた自然共生社会の実現

本市は海、山、川など豊かな自然に囲まれ、そこには多種多様な生物が生息・生育しており、これらは市民が共有する地域の財産として、後世に引き継いでいく必要があります。

そのため、自然の厳しさに対応しつつ自然の恵みを持続的に活用し、また自然生態系や良好な景観を維持するとともに、天草の特性を踏まえた「自然共生社会の実現」をめざします。

(2) 資源を大切に利用する循環型社会の実現

大量生産・大量消費・大量廃棄という現代の社会経済システムは、天然資源の枯渇やエネルギーの大量消費等の多くの問題を引き起こしています。私たちは廃棄物が貴重な資源であることを認識し、それらが適正に循環する社会構造へと変換させていくことが必要です。

社会経済活動のあらゆる段階で、ごみを出さない工夫やモノを長く使う知恵を活かし、最後は資源として再び有効に利用するという持続可能な「循環型社会の構築」をめざします。

(3) 安全で快適な生活環境の実現

市民一人ひとりが健康な生活を送るためには、大気や水を安全な状態に保つこと、また、身近な生活環境における不快な騒音や振動、悪臭、汚染物質の影響などに悩まされることのないようにしていくことが不可欠です。

そのために、日常生活を取り巻く環境について、市民が安心して暮らすことのできる「安全で快適な生活環境の実現」をめざします。

(4) 温室効果ガス排出の少ない低炭素社会の実現

私たちは生活や事業活動で毎日多くのエネルギーを利用しており、そこから発生する二酸化炭素などが要因となって、地球温暖化などの環境問題を引き起こしています。

省エネルギーの推進や地域の特性を活かした再生可能エネルギーの導入など、地域環境に配慮したエネルギーの適正利用を推進することにより、「低炭素社会の実現」をめざします。

(5) 市民総ぐるみで学び参加する環境保全活動の推進

良好な環境を将来へ引き継いでいくためには、環境問題の本質を理解し、日常生活において積極的に環境に配慮した行動ができる人材の育成が重要です。

そのために、市民一人ひとりが積極的に自然とふれあい、学ぶことができる機会を創出し、環境に配慮した行動を実践することができるよう環境教育・環境学習の推進及び市民等の取り組みを支援します。